

## 中野区立桃園第二小学校

## 同窓会通信

—第20号—



持続可能な同窓会を目指して!!

同窓会会長 矢島寛典(三七期)

「同窓会通信第20号」の発行に当たり先ずは皆様からの平素の同窓会に対する暖かいご支援に感謝申し上げます。

我が母校ではこの3月23日、例年より早い桜満開の中、63名の児童が巣立ち、開校以来の卒業生は累計で16,405名となりました。そして4月6日には昨年より10名多い71名の可愛い新入生を迎え、総勢357名で令和5年度が始まりました。

さて、当同窓会の現状でございますが開校百周年を迎えた2021年以降、活動原資となる皆様からのご寄付が減少し、財政的に厳しい局面を迎えております。については経費



▲令和4年度 卒業生一同

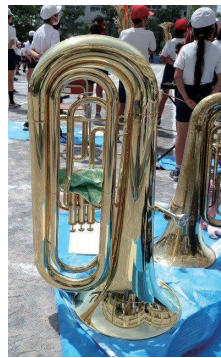
削減策として、支出割合の大きい通信費(主に郵便代)に着目し、本年度より「同窓会通信」の郵送対象を60歳以上としてそれ以下の方々にはWEBを通して見て頂くよう変更させていただきました。当該の皆様には事情ご理解下さりますようお願い申し上げます。

又、重ねてのお願いで恐縮でございますが、少額でも結構でございますので二人でも多くの皆様からのご寄付を宜しくお願い申し上げます。同窓会の活動原資は皆様からの温

かいご寄付以外にないところから伏してお願ひ申し上げる次第でございます。三年後には母校は百五周年となります。その時、同窓会から何らかのお祝いを母校にできたらと願う次第でございます。

## 【追記】

百周年記念寄贈品のチューバが5月27日の運動会で活躍しました。



## 安全運転呼びかけ隊

同窓会副会長 武田尚夫(三六期)

「通学路安全運転呼びかけ隊」は”ゆとり教育”が終わり、第2土曜日が登校日になったため、小学生の通学中の交通事故防止の観点から始まりました。

中野区では平成27年5月13日より、桃二が他校に先駆けてスタート

し、その後、区内の小学校8校もすべて始まりました。その時、都内の交通事故が減らない中、中野区だけでは事故が減りました。桃二の頑張りで交通安全に貢献できたと思うと、OBとしても誇らしい気持ちになりました。

「呼びかけ隊」にはPTA、町会、おやじの会、同窓会など70名が登録し、中野警察署長から「委嘱状」もいただいています。天神坂下交差点では中野署から支給された、男性はブルー、女性はピンクのベストを着て、「スピードを落とす」を促す「ここは通学路です」「登校時間です」などのプラカードや旗を持って、安全運転を呼び掛け、子供たちを見守っています。

PTAのメンバー・五町会の方々、おやじの会の常連と一緒に、同窓会からも毎回、矢島会長と私が参加しています。私は吉祥寺在住ですが、天神坂下で子供たちの通学を見るのが楽しみです。このこ出かけています。黄色い帽子をかぶった一年生がぴよぴよ跳ねながら、嬉しそうに横断歩道を渡っているのを見ると、七十年前、同じ道を仲良しの友達と一緒に通ったことを思い出します。

その友人たちとは今でも時々、集まって食事会をしたり、ゴルフや旅行をしています。

その時はみんな、7才〜12才のころの自分に戻っています。

## 同窓会新役員名簿

令和四年七月十七日(日)午前十三時三十分から母校会議室に於いて第九回同窓会総会が開催され、新たに左記の方々が役員として就任しました。

顧問 大藪正哉(二三期)

会長 郷 忠雄(二四期)

矢島寛典(三七期)

副会長(学校) 武田尚夫(三六期)

(会計) 石原宏祐(三七期)

(渉外) 長谷部智明(五二期)

(名簿) 吉田康一郎(五八期)

常任幹事 菊地 清(三七期)

松村浩之(五二期)

古澤昌彦(五二期)

(事務局) 武田 浩(五五期)

(広報) 大月啓介(六四期)

監事 坊野喜彦(三八期)



QRコードはももにHPへのリンクです。



## 母と桃二と私

肥田浩二(二四期)

私は一九三九年に桃二小に入学した。戦前の話で、今から八十数年前のことになるが、母は今でいうところの「教育ママ」であつたようだ。一人っ子であつた私をしつかり育てねば、という嫁としての意地のようなものがあつたのではないかと思う。

母は、同窓会通信第十八号に掲載された山田典雄氏も書いているように、「桃二は中野の学習院」という評判を信じ、学区域外（我が家は新井町）であつたが、寄留して（越境の段取りを付け）私を桃二に入れた。



▲小学三年生頃・都内

私としてそれは入学して何やら後ろめたさを感じるもので、教室内では小さくなりがちであつた。しかし、クラスの友達とはこたわり

なく遊びの中に入れてくれ、「弾丸デブ」との愛称（肉付きが良い体で、追いかけてこの時すごい勢いで追いかける）をもらい、自分でも気に入っていたので、日々元気に校庭を走り回り、次第に越境意識も忘れ大きな顔で過ごすようになった。四年生の頃だつたと思うがクラスの中で、当時暗記することを義務付けられていた「教育勅語（天皇が国民に発した言葉を教育の基本理念、道徳としたもの）」を漢字で全て書ける子がい

て、「桃二の子は、やはりすごい」と思った記憶がある。戦争が激しくなり、東京が空襲され始め、中野区も集団疎開が始まつた一九四四年、私は小学（当時は国民学校）五年生であつた。母は私を疎開させず手元に置いて甘やかしていると思われたくないとの思いもあり（当時そんな風潮があつた）一人っ子の私を送り出した。反対する父や祖父とずいぶんやりあつたことと思うが、「強い子に育てなければ」という主張で押し通したのだと思う。ただ、疎開中の母からの手紙を今読み返すと、「どんなに辛くても、お国のために浩一も泣き言を言わず頑張るなさい」という強い言葉の裏に、本当は心配で心配でたまらなかつた様子がわかる。実際に疎開先では食べるものは日を追つて減り、疎開児童は飢えながら過ごし

ていた。私も食べ物のことしか考えていない日々であつた。

そんな母の気持ちも伝わる手紙と食べ物の事しか書かない私の、手元に残っていた当時のやりとりをまとめ、三十年程前に手書きの「かぼちゃ」という文集を作つた。そのタイトルは、戦時中私の疎開前に家族で庭にかぼちゃの種を植え、育つ様子の行き来でもあつたからだ。それを最近娘がパソコンで打ち直し当時の写真などを入れて、一冊の本にしようと試みている。

もし興味のある方がいらつしやれば出来次第お送りしますので、左記までご連絡ください。

doggiestone@yahoo.co.jp

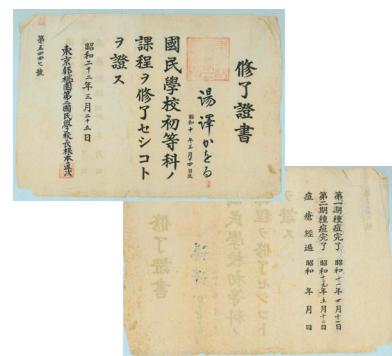


## 大きなプラタナスと木造校舎

湯澤かをる(二五期)

なにか思い出のものがなければと家の中を探してみたら、古ぼけた紙筒の中から桃二の卒業証書がでてきました。

「修了証書 国民学校初等科ノ課程ヲ修了セシコトヲ証ス 桃園第二国民学校長 根本直次」



▲種痘記録が記載された裏面

卒業したのは昭和22年。私たちの学年が、国民学校最後の卒業生でした。小学校時代の強い思い出は、やはり戦争です。私の学年は、昭和9年と10年生まれで、終戦の年は、5年生の夏でした。開戦当初は変わらぬ日常を過ごしていました。

うなぎ屋のリョウコちゃん、蕎麦屋のイクコちゃん、文房具屋のトシコちゃん、カーテン屋のフサエちゃん、布団屋のインヅカくん・・・子供たちは、今も昔も変わりません。近所にはたくさんの子供たちがいて、元気に遊んでいました。

戦況が悪化してくると、少し様子が変わってきました。終戦の前年の4月頃から集団疎開の話が始まり、親戚や知人のところへ行く「縁故疎開」か、学校単位での「集団疎開」か、子供たちはどちらかによって地方へ避難するのです。5年生と6年生が対象でしたが、私たちの地域には4年生の

子供たちも対象になりました。そして、昭和20年の春に、集団疎開が始まりました。担任の先生とともに、疎開します。先生方も児童たちと共に過ごすのです。宿泊するのはお寺の本堂や旅館。小さい子供たちは寂しさから夜も泣いています。大変な思いで、皆、協力しあつて生きていました。

私は、縁故疎開で黒磯に行きました。疎開場所では、爆撃された滑走路の穴を小石で埋める作業をしたり、ゼロ戦を素手で触つて怒られたりと、いろいろな思い出が巡ります。

昭和20年6月。終戦の2か月前に、私は母とともに、一足先に中野に戻るようになりました。5月の空襲で、東京は既に燃えるものが何もなくなくなつていて、むしろ今なら安全に戻るだろうという大人たちの判断だつたようです。

東京が近くなってきました。電車からは焼けた東京の風景が見えます。私たちの街がどうなっているのか心配です。新宿を通過しました。いくつもの見慣れた風景が一変しています。東中野駅のあたりまで燃えていました。しかし、東中野を過ぎたあたりから、焼け残っている家もあります。

「学校は大丈夫かしら？」祈るようにそう思いながら、私は車窓を流れる不安な風景を眺めていました。



燃えていません！木造の二階建ての見慣れた校舎。そして、校門の横の大きなプラタナスも、そのままに残っています。私はホッとしました。そして、やっと帰ってこれたことを実感しました。その年の8月に戦争が終わりました。そして子供たちは、8月末には確か2学期が始まったと記憶しています。

南方戦線から復員した大原先生が新たな担任になりました。GHQの指導で教科書のあちこちを墨で消したり、教育の内容も変わりました。現在の四季の森公園の周辺にあった陸軍の憲兵隊がいましたが、終戦とともにGHQが入ってきました。馬の印を付けたアメリカ第一騎兵師団の乗る大きなジープの迫力に驚き、黒人の兵隊さんの手のひらが綺麗なピンク色だったことや、10代くらいの若い兵隊さんと、路地で石蹴りをしたことを、今もくつきりと思い出します。

終戦の翌年には学校の制度も変わり、6年生になった私たちは、国民学校最後の児童として、桃二を卒業したのです。そうして戦後が始まっていました。

あれからもうすぐ80年になります。今も日本はかろうじて平和です。でも、この平和は、戦後のみんなの努力によってできているのです。懐かしい修了証書を眺めながら、そんなことを思いました。



大好きな「ゆかり先生」

小野真里(五五期)

胸を躍らせ私が入学したのは1年2組。山内ゆかり先生のクラスでした。ご結婚して大阪へ行ってしまったので、先生が桃二にいたのは2年間という短い期間でしたが、優しく笑顔のかわいい先生で私は大好きでした。

毎日「先生あのね」という書き出しの作文のようなものを書き、まるで先生と交換日記をしているようでお返事を楽しみにしていたものです。

ガリ版印刷のお手紙の先生の字も大好きで、わら半紙に印刷する様子をよく見ていました。

家庭訪問の時には先生が自分の家に来る事が嬉しくて、自分の前の番のお友達の家に迎えに行き、そのお家の子と今度は自分の家に行き、終わると次の番の子が待つていて一緒にその子の家まで行き・・・先生が家の場所を知らなくても、楽しく子どもたちが道案内をしていました。

2年生の3学期だったと思います

すが、最後の席替えの時、好きな子の隣にいいよという事になり、私は幼稚園の頃から好きな男の子がいて、先生にそのことを伝えると、「じゃあ真里ちゃんはおコね」とその好きな男の子の隣にしてくれました。ものすごく嬉しくて、今でも思い出すと嬉しい気持ちで蘇ってきます。

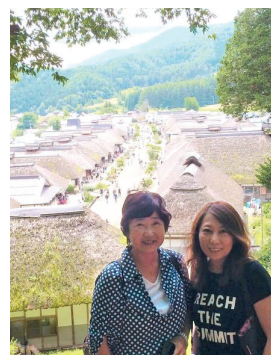
1年生のころから何度も先生のお家に遊びに行っていました。ご長男の出産でご実家に戻られたときにも、先生の家の中でかくれんぼ！新生児の周りをドタバタと走り回っていたのに、先生も先生のお母さまも全く怒らずに、一緒に楽しんでいてくださった記憶です（私の都合の良い記憶かもしれませんがね。）

先生にとって初めての教え子である私たちのクラスのことを、家の場所や親のことまで覚えていてくださいました。「〇〇君の家は□□だったわよね」とか「〇〇ちゃんのお母さんは□□で・・・」とか。私がふざけて「先生、私たちの事大好きだったでしょ」と聞くと、必ず「当たり前でしょ」と言ってくれます。



▲二年生終わりのお別れ会

大人になっても楽しい時間を一緒に過ごす機会にも恵まれました。同級生も一緒に先生の別荘がある那須へ旅行へ行ったり、京都を案内してもらったりして。。



▲ゆかり先生と大内宿で

京都の伏見稲荷大社では、外国人の方に気軽に英語で話しかけて説明を始めてしまったり、本当に優しいさの塊のような場面をよく目にしました。

昔からネパールの支援を続けていたり、全てにおいて尊敬という言葉では足りないくらい想いを私は先生に抱いていて、今でも大好きな先生です。

私たちが3年生になり、先生が大阪に行ってから私は年賀状を毎年送り、その付き合いは先生がご病気で亡くなられる2018年まで続きました。

小学校の思い出と言ったら、真っ先に「ゆかり先生」を思い浮かべます。本当に大好きな先生でした。

※ご結婚後は「大仲ゆかり」先生となりました。



桃二時代の思い出に寄せて

宇都宮(旧姓・伊藤)繁明(三六期)

寄稿の御誘いを受けてから、桃二時代を振り返るとそのまま自分の人生を辿る旅となりました。私達の世代は戦災で荒廃した東京の大復興とともに育った仲間です。今は幻しの「満州」からの引揚げ難民から始まった私は家族の崩壊と再編を経て中目黒、中野と都内を移り桃二に転校して来ました。

家計を支えた親たちの苦労をよそに中野での暮らしは（今思えば）私にとってまだ穏やかな流れの、幸せな時代でした。

中野の思い出は「遊んだ事」しかありません。

とにかく良く遊んで居ました。校庭で、ドッジボールや陣取りゲーム、放課後は家の庭の池で皆んなとゴム動力潜水艦の実験。近くの空地では草野球。浅川、多摩川で釣や水遊び。千葉の潮干狩、高尾山、筑波山の山登り。ベーゴマ、メンコ、果ては隣家の柿の盗み喰いなど。よく遊び、背も伸び、今でも声を掛け合

う仲間が沢山残って居ます。

現在私は四国愛媛で家内の実家の造り酒屋を次代の若者に引き継ぎながら、ここ数年、近くの情緒障害児治療施設で指導員をして居ます。施設に預かる児童と接し、自分の桃二次代を省みて、日頃から折あらば子供達に伝えてやりた

い思いがあります。

一つは、小さい頃は、みんな、外に出てうんと遊び、疲れ、友達を沢山作りなさい。

二つ目は、人は皆、生まれながらに不平等。でもその人のせいやない。誰でも比べられない夢を沢山もったオンリーワン（君は君）なのだよ。もし他人より何か



曾根修司(五二期)

私が桃二に入学した時、兄6

年・姉3年が居て非常に心強い通学から始まりました。当時現在の本校舎が出来て間もない頃、お茶の間ではアニメ怪物くんが流行っており皆でテーマ曲を歌っていたのを覚えています。

2年生までは木造建ての体育館で、新設する為に教室が校庭内東寄りのプレハブ校舎に移りました。その教室は大きなストーブが置かれその席の近くは暖かく、遠いほど非常に寒いという粗末な作りで、私は遠い方だったので毎日苦痛でありました。当時の昭和の歌謡曲はブルーマメツ、ブルーシャトーの替え歌をその廊下で良く歌っていました。沢田研二がブルードウエイに住んで居て幾度か遭遇し、兄弟弟でファンになり、のちに昭和の代表歌手となり、次々とヒット曲を連発して行きました。

3、4年は組替えの無いクラスで新設の体育館の1階で新しく快適な教室、ここで授業中に見た浅間山荘事件のリアルタイムの白黒TV中継、鉄球で山荘破壊シーンの衝撃は今だに心に残っています。当時は食品の新商品も目白押しで、カップヌードル、ボンカレー、カルビーポテトチップス、味の素マヨネーズ、次々に親が買って来ては味見をした記憶があります。全てが美味しく、私の家では目新しい物好きになり、遂に

電子レンジまで購入しましたが、当時使い方が全く分からずしばらくそのまま放置状態でありました。大阪万博もありクラスの半数くらいが行って来た話をしていて、行かない私は凄く羨んだ記憶があります。アポロ月面有人着陸からの月の石は興奮しました。そして小学校で初めて発熱し、初めての保健室（医務室）に連れて行かれ、どれくらいだったか？額に水のうをぶら下げられ気持ちよく寝たのがすごく爽やかな記憶です。

5、6年小学校では最年長、最上階の3階に教室がありそれまで躊躇していた屋上に堂々と上がれ、あの時幾度も見た富士山がとても綺麗でした。桃二屋上からの富士山の記憶は卒業生全員があるのではないのでしょうか。この頃から友達の間で引越しかつが多く、中央線吉祥寺から立川方面が新興住宅の時代で、マイホームを築いた親たち、銀行員の家庭では多く、丁度小学生までの期限付きのファミリー寮であった事を後に聞かされました。お別れの寂しさ、そして転校生との新たな出会い、大人になりかけていた気がします。ユーミンの十円木馬（ハイファイセット）という曲の歌詞が当時のその光景を思い返す部分があります。この頃からTVで子役として、ケンちゃん、キャロラインヨウコ、

フィンガー5、ちーばー？？が同世代で出てきて、大人の競争が、もう始まっていると予見した次第です。

小学校時代を振り返ると、昭和の平和な6年間を過ごした思い出、移動教室以外で通学時6年間を半ズボンで過ごした事、毎日約1kmを往復通学した事、強靱な小学生でありました。

そしてサンプラザ開業が小6です。今年で取り壊しになるのも半世紀の歴史、早く感じます。



桃二を卒業して

熊埜御堂 隆(五五期)

「桃二での思い出を書いてくれないか」という依頼を頂き、な

を書こうか考えてみた。しかし、強い思い出は全くないのである。おそらく平凡で病弱であったので、月曜日から土曜日まで通学すると疲れて、毎週熱発する子供であった。また50年以上前の記憶など忘却の彼方へ行ってしまう学校生活などほとんど覚えていない。それでも、卒業アルバムを見ながら思い出してみることにした。アルバムの最初には、亡き母に

手をつながれて本校舎と体育館の間の道を歩いている写真があった。そういえば、桜の花びらが綺麗だった気がした。小学校1年生

の担任は「山下先生」で2年生までお世話になった。3年生と4年生時担任の先生のお名前は「橋本先生」かもしれないが思い出せない。ページをめくると遠足などの写真があるが、どうやら参加しているようである。箱根は判ったが他の場所はさっぱりわからない。

修学旅行は初日に「まくら投げ」をしたために、埃で喘息発作を起こし緊急帰京したことを思い出した。5年6年の担任は「宮下先生」で、今も付き合ひのある同級生がいる。当時、用務員室で放課後に職員の方が作った豚汁を食べさせてもらったが、今ではとても考えられないだろう。桃二卒業後は区外の中学校に進学したので、同じく進学した「澤君」以外とは、ほとんど遊ぶことは無くなっ

てしまった。それでも近所の同級生とはそれなりに遊んだ記憶がある。学校の時間よりも天神町、打越町の道路やお互いの自宅にお邪魔して、自慢の遊び道具を見せてもらった。当時は仮面ライダーV3の初回放映日は、みんな自宅に帰ってしま

い道路に誰もいなかった。今、僕は地元で仕事している